

# 新日が創業50周年

総合建設コンサルタント業を営む新日（名古屋市中川区）が創業50周年を迎えた。中国の古典『大学』の一節「苟日新 日々新 又日新（マコトニヒニアラタニ、ヒニアラタニ、マタヒニアラタナリ）」を社名の由来とし、日々進歩向上するための継続的な努力を経営理念に掲げ、50年を駆け抜けてきた。



向かって右が協田会長、左が秋山社長

この50年を振り返り、特に印象に残っている仕事について、協田米丞会長は地域密着型複合商業施設「ミタス伊勢」とスーパー銭湯「みだすの湯」の経営に参画したことを挙げ、「これまでの建設コンサルタントから新たな業態にチャレンジした事業。今では地域住民の憩いの場所としてだけでなく、新日グループのもう一つの収益の柱となった」と胸を張る。

一方、秋山学社長は釜石市の復興事業が印象的だという。東日本大震災で被災した釜石市内の2地区で、嬉石松原地区被災市街地復興土地区画整理事業と津波防災拠点市街地形成施設事業（東部地区）に関する用地買収補助業務、測量調査設計業務を担当し、来年3月で事業が完了する。「なんとか早く

ある。また、現社屋の跡地には50室ほどの賃貸マンションを建設し、今後10年先を見据えて、2人に共通しているのは時代に合った仕事をしていくことだ。新たな業種へチャレンジすること、自治体が抱える問題に対して建設コンサルタントの観点で解決策を提案することが大切だという。東海エリアはこれから大きく変わろうとしており、特にリニア中央新幹線事業では、用地取得のための測量、建物調査、価格協議資料の作成など重要な役割を担っている。協田会長は、「50周年を迎えた今だからこそ、人々が安全で快適に暮らしていくため、その一役を担っている」と誇りを持って、仕事に取り組んでいかなければならない」と気を引き締める。

## 社員が働きやすい新社屋建設へ

## 人々の安心な暮らしを守る仕事に誇りを

細める。

50周年を機に、現社屋の隣接の土地に新社屋を建設する。5階建て延べ約2000平方メートルの規模で、社員が働きやすい環境を充実

している」と自信を見せる。秋山社長は新社屋について「働くだけではない」と誇りを持って、仕事に取り組んでいかなければならない」と気を引き締める。

「50周年を迎えた今だからこそ、人々が安全で快適に暮らしていくため、その一役を担っている」と誇りを持って、仕事に取り組んでいかなければならない」と気を引き締める。



区で、嬉石松原地区被災市街地復興土地区画整理事業と津波防災拠点市街地形成施設事業（東部地区）に関する用地買収補助業務、測量調査設計業務を担当し、来年3月で事業が完了する。「なんとか早く

50周年を機に、現社屋の隣接の土地に新社屋を建設する。5階建て延べ約2000平方メートルの規模で、社員が働きやすい環境を充実

している」と自信を見せる。秋山社長は新社屋について「働くだけではない」と誇りを持って、仕事に取り組んでいかなければならない」と気を引き締める。